

## かけのまち子議員の「江南市立あずま保育園・中央保育園の統廃合と民営化中止を求める請願書」に対する賛成討論

この請願は、市立あずま保育園と中央保育園という、現在でもほぼ定員いっぱい園児が在園する 2 つの保育園を統合し、図書館跡地に 200 人を超える大規模保育園をつくり、民間事業者に整備・運営を任せる市の計画案に対し、中止を求める内容となっています。

請願提出者は、元保育士と保護者の皆さんでつくる江南市の公立保育を守る会です。委員会での意見陳述や、請願者の発言には、保育士として定年まで勤めあげ、私立も含めた保育現場全体を知り尽くした方々ならでは誇りと、どの子どもたちも健やかに育つことができる、どの保護者にとっても安心して就労できる充実した公立保育園を守ってほしいとの熱い思いがあふれていて、大変感動いたしました。

市議会の適切な判断で、危うい市の大規模民営化計画をぜひとも止めていただきたいと切望します。

**この計画でもっとも危惧されるのは、大規模化と民営化という 2 つの危うさが重なっている点です。**

ゼロ歳児から 5 歳児まで、早朝から延長保育の園児まで、さまざまな保育条件の園児 200 人超を抱える大規模園となると、市当局も認め、請願者も述べられたように、全体を把握するのが非常に難しくなります。

一人一人の園児とその保護者に目を行き届かせる丁寧な保育が困難になり、事故の危険性がいやおうなく増えてしまいます。とりわけ災害時には、全園児の安全を確実に守る対応ができにくくなる恐れがあります。

幼稚園で 200 人規模は普通だとの意見が委員会でありましたが、3 歳～5 歳児の、ある程度集団行動ができる年齢の子どもばかりの、教育時間も短い幼稚園と、0 歳～5 歳児までの発達段階が様々で、しかも登園、退園時間帯もさまざまな保育園を同列に論じるのは、無理があるのではないのでしょうか。

また、なぜあずま保育園と中央保育園を統合する必要性が今、あるのかという点でも疑問があります。江南駅に近い中央保育園は、駅を利用し通勤する保護者にとって大切な園となっています。わざわざ貴重な駅近くの、交通利便性が高い立地の中央保育園をなくし、市街化調整区域の周辺人口の少ない図書館跡地へ統合するのでしょうか。これでは駅利用通勤者の利便性が確保されません。

市が策定しようとしている市立保育所等の配置に関する基本方針案でも、「交

通利便性が高く人口が集積するなど、地域の拠点となりうる箇所への配置を検討」とあり、市自らの基本方針案とも矛盾しています。中央保育園の廃止に対しては保護者からも疑問の声が届いています。

園児が少ない入所率が50%を切っている地域の保育園保護者からは、多人数での集団保育を望む観点から、統合を望む声もあるとのことですが、今回のあずま、中央保育園ではこれは全くあてはまりません。

両園は古知野南校区、古知野東校区にあり、入所率も高く、この先も人口減少と園児数の減少はさほど心配ありません。統合が必要ならば、まず、入所率が低い地域から始めるのが妥当というものです。

#### 次に民営化の問題点について述べたいと思います。

請願者からは、民間保育園でも、特色のある良い保育を行っているところもあるとの意見がありました。そういうところは保育で儲けない、社会福祉法人や学校法人の民間園では、大規模園の運営は決して受託しないと述べられていました。

大規模園を民間で建設しようとする、多額の整備費の事業者負担分を調達できる、全国展開の大手民間事業者が参入し選定される恐れが大きくなります。良心的な社会福祉法人や学校法人ではとても参入できません。

市から民間保育園へ支払われる運営費は、国が決めた公定価格に基づく金額だけです。保育園では通常、保育士の人件費割合が、運営費の8割ほどは必要といわれています。しかし、民間の営利保育事業者は、そこから儲けを出すために人件費を削ります。ベテランを少なくし経験の浅い保育士を多く雇って給与を低く抑えるか、保育士の人数を基準ぎりぎりまで減らす経営になりかねません。

その結果、事故や不適切保育が起きる怖れが高まります。

ベテラン保育士の経験を学ぶ機会に恵まれず、相談する機会も少ない保育現場では若い保育士が保育の喜びややりがい、ノウハウを蓄積することができず、結果、早期退職や転職が増えかねません。

江南市の指定管理の2保育園の運営費に占める保育士の人件費割合は、実に対照的です。学校法人の指定管理保育園では令和3年度実績報告で、88%だったのに対し、民間保育企業の指定管理園では70%にすぎませんでした。

江南市は、すでに指定管理の経験から、同じ民間でも、社会福祉法人や学校法人に任せの場合と、民間営利企業に任せの場合でいかに違うのか、わかっている

のではないのでしょうか。

指定管理園であれば、まだ、市が仕様書に基づいて指導監督することができ、保育士の賃金の明細まではわかりませんが、運営費の用途はある程度、市がチェックできます。

しかし、民営化した園では、市がそこまで指導監督することはできません。収支報告書を提出させて中味を市や議会がチェックすることもできなくなります。

国の方針で保育の株式会社化がすすみ、現在は、民間保育園に市が支払った運営費。本来、年度ごとに使い切るべき運営費のうち、3割を繰り越すことができる仕組みに変えられており、その繰越分が、企業の他事業のための原資とされたり、高額な役員報酬になっている可能性が指摘されています。

税金である運営費の用途を市がチェックできないというのは、本当に不安でしかありません。

また民間園で、人件費がかさむ、障害児の受け入れが敬遠されたりすることは、請願者から実体験として証言がありました。公立保育園では決して行わない、高額な別料金を徴収する英語やリトミックなど稽古事が、民間園では儲けのために保育メニューに追加されることがあります。別途料金が払えない家庭の子どもがその時間に参加できずに寂しい思いをさせられることも、起きてきます。

公立保育園は、どんな経済状態の家庭の子どもでも入園でき、みんなが等しく同じ内容の保育を受けることができます。別料金のかかるものは実施せず、障害児でも入園を断ることはありません。特に江南市の保育園は、障害児保育にしっかりと取り組んできた大事な財産をもっています。

遊びを通してすべての子どもの発達を保障し、地域の保育水準をつくり、地域の保育の質を守っています。もうからなくても撤退することはありません。

特に江南市は、これまで、市内にきめ細かく18の公立保育園をもっていることを大切なセールスポイントとしてきました。その方針を放り出し、大手民間保育産業の呼び込みに転換するのは、江南市の保育水準をこれまでつくりあげ懸命に支えてきた方々を大いに失望させるものではないのでしょうか。

お隣の岩倉市では、公立保育園の統合による民間保育園計画がいったんはありましたが、市民の声で修正され、公立保育園としての建て替えにきました。江南市でも、未来をになう子どもたちのために、この計画中止を求める請願をぜひ採択していただき議会ので大規模民営化にストップをかけていただくことを心から訴えて、賛成討論といたします。